

妙法蓮華經。

化城喻品。

第七

ぶつごうしよーびーくー ないおうかーこー むーりようむーへん
仏告諸比丘。乃往過去。無量無辺。

ふーかーしーぎー あーそうぎーこう にーじーうーぶつ みよう
不可思議。阿僧祇劫。爾時有仏。名

だいつうちーしようにーらい おうぐー しょうへんちー みよう
大通智勝如来。応供。正遍知。明

ぎようそく ぜんぜい せーけんげー むーじようじー ちよう
行足。善逝。世間解。無上士。調

ごーじようぶー てんにんしー ぶつ せーそん ごーこく
御丈夫・天人師・仏・世尊。其国

みようこうじよう こうみようだいそう しょうびーくー ひー
名好成。劫名大相。諸比丘。彼

ぶつめつどーいーらい じんだいくーおん ひーによーさんぜん
仏滅度已来。甚大久遠。譬如三千

だいせんせーかい しょうぢーしゆー けーしーうーにん
大千世界。所有地種。仮使有人。

まーいーいーもく かーおーとうぼうせんこくどー ないげーいっ
磨以為墨。過於東方千国土。乃下一

てん だいによーみーじん うーかーせんこくどー ぶーげー
点。大如微塵。又過千国土。復下

いってん によぜーてんでん じんぢーしゆーもく
一点。如是展転。尽地種墨。

ほとけー もろもろ びく につ ないおうかーこー
仏、諸のー比丘にー告げたまわーくー、乃往過去

むーりようむーへんふーかーしーぎーあーそうぎーこう そ とき ほとけー
無量無辺不可思議阿僧祇劫、爾の時にー仏いまし

ーきー、大通智勝如来・応供・正遍知・明行足・

ぜんぜい せーけんげー むーじようじー ちようごーじようぶー てんにんしー ぶつ
善逝・世間解・無上士・調御丈夫・天人師・仏・

せーそん なつ そ くに こうじよう なつ ころ
世尊とー名くー。其の国をー好成とー名けー、劫を

だいそう なつ もろもろ びーくー かー ほとけー めつ
ー大相とー名くー。諸のー比丘、彼のー仏のー滅

どー 度よーりーこのかーたー、甚だー大にー久遠な

ーりー。譬えーばー三千大千世界のー所有のー地種

をー、仮使人あつてー磨りー以てー墨とー為しー、

とうぼうせん こくどー す すす すす すす すす すす すす
東方千のー国土をー過ぎてー乃ちー一点をー下

さん、大さー微塵のー如しー。又千のー国土を

ー過ぎてー復一点をー下さん。是のー如くー展転

しーてー地種のー墨をー尽くさんがー如きー、

【現代語訳】

仏は、諸々の修行者たちに
対してこうおっしゃいました。

「いまは昔、はかることも
できず、際限がなく、不可思
議なほど無量の時のいにしえ
に、一人の仏がおられた。そ
の御名を、大通智勝如来、供
養に値する者、正しき悟りを
得た者、智慧と行いを完成さ
せた者、善き悟りに達した者、
世をよく理解した者、この上
なき者、よく衆生を導く者、
神々と人々の師、仏、世に尊
ばれる者という。その仏の国
を「良好な成長」といい、そ
の仏の時代を「大いなる姿」
という。

諸々の修行者よ、その仏が

亡くなられてから、もうすで
に永遠に比ぶべき時が流れて
いる。

たとえば、「三千大千世界」
といわれるこの宇宙の全ての
土地を、ある人が全てすりつ
ぶして墨を作ったとしよう。
そして当方の千の世界を過ぎ
る度に、その墨の一点を下す
としよう。その墨の一点は微
かな塵のように小さなものだ。
そしてその微塵をまた千の世
界を過ぎる度にまた一点下す
のである。このように繰り返
して、もとの全ての墨の塵を
ことごとく使い尽くすとしよ
う。」

★比丘：仏の教えに帰依し、出家

入道した者。

★如来十号

- ① 如来…真実の世界に至り、ま
た真実の世界から来られし者
を如去如来という。
 - ② 応供…供養を受くるに足る者。
 - ③ 正遍知…一切智を具し一切法
を了知する者。
 - ④ 明行足…宿命・天眼・漏尽の
過去現在未来の三明と身口意
の三業を具足する者。
 - ⑤ 善逝…智慧によつて迷妄を断
じ世間を出た者。
 - ⑥ 世間解…世間・出世間におけ
る因果の理を解了する者。
 - ⑦ 無上士…最も尊き無上の大士。
 - ⑧ 調御丈夫…御者が馬を調御す
るように、衆生を調伏制御し
て悟りに至らせる者。
 - ⑨ 天人師…天と人の師となる者。
 - ⑩ 仏世尊…世に尊重せらるる者。
- ★三千大千世界…千×千×千とい
う十億個の世界。

おーによーとういーうんがー。ぜーしよーこくどー。にやくさんしー
於汝等意云何。是諸国土。若算師。

にやくさんしーでーしー。のうとくへんざい。ちーごーしゆーふー
若算師弟子。能得辺際。知其数不。

ほつちやー。せーそん。しよーびーくー。ぜーにしよーきよう
不也。世尊。諸比丘。是人所經

こくどー。にやくてんふーてん。じんまつちーじん。いちじん
国土。若点不点。尽抹為塵。一塵

いつこう。ひーぶつめつどーいーらい。ぶーかーぜーしゆー
一劫。彼仏滅度已来。復過是数。

むーりようむーへん。ひやくせんまんのく。あーそうぎーこう
無量無辺。百千万億。阿僧祇劫。

がーいーによーらいちーけんりきこー。かんびーくーおん。ゆう
我以如来知見力故。觀彼久遠。猶

によーこんにち。にーじーせーそん。よくじゆうせんしぎ
如今日。爾時世尊。欲重宣此義。

にーせつげーこん
而説偈言

がーねんかーこーせー
我念過去世

むーりようむーへんこう
無量無辺劫

うーぶつりようそくそん
有仏両足尊

みようだいつうちーしよ
名大通智勝

なんだち。こころー。おい。いーかん。こー。もろもろ。こくどー
汝等がー意にー於てー云何。是のー諸のー国土

をー。若しはー算師若しはー算師のー弟子、能くー
へんざい。えー。そ。かず。しー。い。な。い。な。い。な
辺際をー得てー其の数をー知らんやー不やー。不

なりー。せーそん。もろもろ。びーくー。こ。ひ。と。ところー
也。世尊。諸のー比丘、是の人のー經る所の

こくどー。も。てん。てん。い。ち。じん
一国土のー、若しはー点せるとー点せーざるとーを、
こくご。まつ。ちり。い。つ。こう
尽くー抹しーてー塵とーなしてー、一塵をー一劫

とーせん。彼のー仏のー滅度よーりー已来、復
か。ほ。と。け。め。つ。ど。このかーたー。まーたー
とーせん。彼のー仏のー滅度よーりー已来、復

是の数にー過ぎたるこーとー無量無辺百千万億阿
そうぎーこう。わーれーによーらい。ちーけんりき。もつ
僧祇劫なーりー。我如来のー知見力をー以てのー

ゆえ。か。く。おん。み。な。こ。ん。に。ち
故にー、彼のー久遠をー觀るこーとー猶おー今日の
こ。と。な。こ。ん。に。ち
一如しー。

そ。とき。せーそん。か。き。こ。ぎ。のー
爾の時にー世尊、重ねてー此の義をー宣べんとー

ほつ。の。た。ま
欲しーてー、偈を説いてー言わくー、

わーれーか。こ。せー。むーりようむーへんこう。おーも。ほ。と。け。り。よう
我過去世のー。無量無辺劫をー念うにー。仏両

そくそん。だ。い。つ。ち。し。よ。う。な。づ
足尊いましーきー。大通智勝とー名くー。

【現代語訳】

諸々の修行者よ、どうだろうか。どう思うか。

その全世界の墨の塵が尽きるまで、その人が巡った世界の果ての数を、いかなる数学者やまたその弟子が計算することができらうか。

「世に尊い方、そのようなことができるはずはありません。」

「諸々の修行者よ、ところが今度は、その人が旅をした全ての世界、つまり、その墨塵を点じた世界も、墨の塵を点じなかつた世界も全て合わせて、それらの

世界をことごとくすりつぶして塵にしてしまったとしよう。

そしてその一つの塵の粒を一つの「劫」という時間の長さであつたとしよう。

かの大通智勝如来が亡くなつてよりこのかた、実はそれらの果てしなき劫の数よりも、さらにまた計ることもできず、際限がなく、不可思議な無量の時のいしえの時が過ぎていくのだ。

しかし、私は仏の智慧の力を持つが故、そのはるか昔を見ることはまるで今の時を見ているようなものだ。」

まさにその時、世尊は、重ねてこのことの意義を伝えるため、それを詩にして謳われました。

「わたしは、今、過去の世の量り知れない時代を思っている。その量り知れないいしえに、また仏、二本の足で歩く者の中で最も尊い方がいらつしやう。その御名を大通智勝といふ。」

★ 算師：数学者。インドは0を發明した土地で古くから数学が盛ん。

★ 両足尊：二足で歩く者、すなわち人間（時には一部の神々を含む）の中で最も尊い者である仏。

如人以力磨によりにんいりきま
 尽此諸地種じんししよぢしゆ
 過於千国土かおせんこくど
 如是展轉点によぜてんでん
 如是諸国土によぜしよこくど
 復尽抹為塵ぶじんまつちじん
 此諸微塵数ししよみじんじゆ
 彼仏滅度来ひぶつめつどらい
 如来無碍智によらいむげち
 及声聞菩薩ぎゆつしよもんぼさつ
 諸比丘当知しよびくとうち
 無漏無所碍むろむしよげ
 三千大千土さんぜんだいせんど
 皆悉以為墨かいしつちいもく
 乃下一塵点ないげいちじんてん
 尽此諸塵墨じんししよじんもく
 点与不点等てんよふてんとう
 一塵為一劫いちじんいっこう
 其劫復過是ごうこうぶかぜ
 如是無量劫によぜむりようこう
 知彼仏滅度ちひぶつめつど
 如見今滅度によけんこんめつど
 仏智淨微妙ぶつちじようみみよう
 通達無量劫つうだつむりようこう

人あつて力を以て。三千大千の土を磨つて
 此の諸の地種を尽くして。皆悉く
 以て墨となして。千の国土を過ぎて。
 乃ち一の塵点を下さん。是の如く展轉し
 点して。此の諸の塵墨を尽くさんが
 如し。是の如き諸の国土の点せると
 点せざると等を。復尽く抹して塵と
 一塵を一劫とせん。此の諸の
 微塵の数に。其の劫復是れに過ぎたり。
 彼の仏の滅度より来。是の如く無
 量劫なり。如来の無碍智。彼の仏の滅度。
 及び声聞菩薩を知るごと。今の滅度を
 見るが如し。諸の比丘当に知るべし。仏
 智は淨くして微妙に。無漏無所碍に
 して。無量劫を通過す。

【現代語訳】

「ここに人がいて、その力で、この「三千大千世界」という十億もの世界よりなる全宇宙をすりつぶしたとしよう。

そしてその大地をことごとく細かい墨として、千の世界を過ぎる度にその墨の塵のたつた一粒を下していったとしよう。

そしてそれを幾度も幾度も繰り返し、その全ての墨の塵を使い果たしたとしよう。

さらにまた、今度はその人が通った諸々の世界、すなわち墨粒を点じた世界も、点じなかつた世界もまたことごとく合わせてすりつぶして塵にしたとしよう。

そしてその塵の一粒自体が

実に「劫」という果てしない時の長さを表すとしよう。

大通智勝という仏がいらつしやつたのは、その全ての微かな塵の数ほどの果てしなき「劫」を合わせた無量の時よりも、またはるかに以前のことなのだ。

かの仏が亡くなられてから、そのようにはかり知れない時が過ぎている。

わたしは仏の遮るものがない智慧によつて、かの仏が亡くなつた時、またかの仏の世の仏弟子や菩薩たちを知るこ

とができる。
私にとつて、かの仏はたつた今亡くなつたかのようにであ

る。

諸々の修行者よ、仏の智慧は清らかで、微妙であり、完全であり、遮るものがなく、はかり知れない時の流れに達して通じている。」

★ あらすじ…大通智勝仏は出家前は、王であり、十六人の王子がいた。十六人の王子は、父が出家すると同じく出家し、父である仏から法華経を聞き、父の滅後、菩薩として法華経を説いた。十六番目の王子こそが、やがて娑婆世界にて仏となる釈尊自身であるという。また十六番目の王子から、かつて法華経を聞いた者たちが、転生し、今またここで法華経を聞いている釈尊の弟子たちであるという。